

授業コンサルテーションによる授業改善

特別支援教育講座・檜木暢子

1. 授業の概観

1-1 授業概要

<目的>

本授業は特別支援学校教員免許状取得に必要な科目であり、病虚弱児の教育に関する制度や教育課程について概説できること、病虚弱児の個に応じた配慮点を含めた指導を立案できることを目的とした。そのため、①学習指導要領及び解説の病虚弱児に関する記述の理解、②病虚弱児の障害特性や心理特性を理解した上での具体的な指導方法の理解と習得、③指導案の立案と模擬授業による実践力の育成、④病虚弱児教育に関わる現代の課題の理解を各授業におけるねらいとした。

<内容>

- ・病虚弱児の定義と教育の歴史
- ・特別支援学校（病弱）の教育課程と編成
- ・自立活動の内容
- ・通常の学校における配慮事項
- ・院内学級における心理特性と支援
- ・医療的ケアの歴史と現状
- ・医療、福祉等との連携
- ・病虚弱児のモデルケースに関する学習指導案立案、模擬授業 5 分、KJ 法による討議 15 分

<レジメの工夫>

スライドとレジメをリンクさせ、重要事項についてはスライドを見ながら穴埋めする形式にした。

<学生へのフィードバック>

模擬授業指導案は添削し、模擬授業後に返却した。授業後 1 週間以内に、授業検討の内容と添削コメントを基に、改善指導案の提出を課題とした。授業検討のために授業者以外は各模擬授業ごとにミニレポートを提出させた。

ミニレポート以外の課題ワークシート（5 回）は添削し、返却した。

2. 授業評価法

①6月28日（金）授業コンサルテーションによる評価

②7月12日（金）に DP による授業評価アンケート実施

3. 授業評価結果と改善点

受講者は学部学生 24 名（2 回生 19 名、3 回生 13 名、4 回生 2 名）、大学院特別支援教育コーディネーター専修 4 名（現職教員）、他専修 1 名、科目等履修 1 名で、合計 40 名であった。

①授業コンサルテーション：受講生 40 名中 39 名出席、総コメント数が 353、平均 9.05 のコメントが得られた。結果については担当者からフィードバックを受け、7 月 5 日（金）に、結果と改善点を示した。

②受講生 40 名中 34 名からの有効回答があった（回収率 85%）。

3-1 ①授業コンサルテーションについて

表 1 に学生からの回答数が多かったコメント（良い点）、表 2 に学生からの回答数が多かったコメント（疑問点、改善点）を示した。

指導案作成から模擬授業、フィードバックについては概ね良い評価が得られたが、模擬授業や討議の時間が短いとの指摘があった。模擬授業については時間延長も考えられるが、討議時間については、ミニレポートを課しており、指導案を読み込んだうえでの討議なので、15 分で論点をまとめる力をつけてもらいたいと考えた。

班ごとに指導案を共有し、ミニレポートは授業者に渡すようにしていたが、他班の指導案や班内のメンバーがどのように指導案を読み取ったのか知りたいという意見が出ていた。指導案については追加で資料を配布し、ミニレポートについては各自が班のメンバーに配布するように改善した。

授業構成として、講義 20 分、模擬授業 30 分×2、全体フィードバック 10 分としていたが、全体フィードバックに時間が掛かり、授業時間を越えてしまうことが多かった。改善点としては、講義はまとめて行い、模擬授業を 30 分×2、フィードバック 30 分とした方が良いと考えた。

スライドの切り替えが早いとの指摘に対しては、上記のとおり、授業配分を変えることで、時間の確保が可能になると予想される。

教科書については学習指導要領及び解説を3回で読み込み、その後は指定したテキストを使用した。学習指導要領及び解説の重要ポイントの共有方法として、コンサルタントから時間外学習で読んできて答え合わせすることで、主体的な学びが促せることを指摘された。

模擬授業の際、上回生、現職教員などは均等になるよう班割をしている。上回生がいると論議が深められるとの指摘があったが、今年度はカリキュラムの変更があり、2, 3回生が多かったことによる利点であり、来年度以降は2回生がほとんどとなるため、上回生の配置が難しくなる。

視覚教材については、病気の子どもたちを扱った市販教材はほとんどない。疾病受容や個人情報保護などの観点からと思われる。テレビ番組などを録画して提供したいが、この授業を受けている間だけでも、自分で情報を

得る努力をしてもらいたいと伝えた。

3-2 ②DPによる授業評価について

10項目に関する平均は3.43で、SDは0.097であった。項目別にみると、DP1A「教育に関する確かな知識」=3.62及びDP1B「得意分野の専門的知識の習得」=3.50が高得点で、DP3A「教育活動に必要な高い技能の習得」=3.32、DP4A「自己の学習課題の明確化」=3.35がやや低かった。

4. 総括

前期に受けた授業コンサルテーションの結果を活かし、後期の「肢体不自由児の教育課程と指導法」では、講義と模擬授業を分け、模擬授業を10分とした。指導案についてはメールに添付し、全員での共有を図った。ミニレポートについては模擬授業ごとに班内で配布するようにした。また、学習指導要領については事前に肢体不自由に関する部分にラインを引いてくる課題をだし、班に分かれて共有するようにした。学生への情報提供や主体的な学習の時間を増やすことができた。

表1 授業コンサルテーションによる学生の回答数が多かったコメント（良い点）

フィードバック：指導案に対して一人ひとりに丁寧に詳細である	98%
フィードバック：模擬授業後のフィードバックが当事者だけでなく聞いている人にとっても勉強になる	90%
グループワークで、院生や上回生の意見が聞けるのがよい。自分たちだけでは気づけないことに気づく。	98%
ワークシートが評価されたうえで返却されるため、自分の理解が間違っているところがわかる	90%
事実だけではなく、先生の体験談や経験による具体的に指導について話してくれる	95%

表2 授業コンサルテーションによる学生の回答数が多かったコメント（疑問点、改善点）

指導案へのコメントで、みんなの前できびしいコメントをされると心がズキズキする。良いこと改善点を半々ぐらいで伝えてもらうか、直接指導案に赤を入れて欲しい。	9名
プリントの穴埋めが多い	6名
指導案に対するほかのメンバーのコメントがみたい	80%
事例などで視聴覚教材（写真・映像等）を活用してほしい	90%
スライドの赤字と青字の使い分けは何か意味があるのか？教えて欲しい	95%

表3 模擬授業と討議の時間に関する意見（人）

	模擬授業	討議
短い	24	29
ちょうどよい	15	10
長い	0	0